

# Saka-yell

\*暮らし、栄える、好きになる\*

= 第五号 =

## = 特集 =

和スイーツ\*モダンクラシック  
千鳥屋本家 飯塚本店  
和草

## = 定期連載 =

詩あわせサンチェ  
住まいる!サカエポイント☆  
絵心が欲しい~ 教えて!描ける人!!  
Saka-yell 情報局  
・募集掲示板 (New)  
サカエ住宅的・快適生活





筑豊から世界へ  
誰七が知っている優しい味を求めて

【千鳥屋本家 飯塚本店】

甘えん坊の末っ子坊ちゃん  
「お菓子」ばいっも  
そばにあつた

千鳥屋は一六三〇年(寛永七年)に、旧佐賀藩である佐賀市久保田町にて菓子舗「松月堂」として生まれた。その後、炭鉱で筑豊が賑わっていた昭和初期、支店として飯塚市に「千鳥屋」を出店。昭和一四年には佐賀の松月堂を閉じ、飯塚の「千鳥屋」を「本店」とした。利一郎氏は、当時の店主である原田政雄氏と原田つゆ氏の息子である。

八人兄弟の末っ子として生まれた利一郎氏は、子供の頃から甘えん坊で、いつも母の背中にくっついて回るような子供だった。当時の従業員たちからも可愛がられ、製造ラインをお散歩しては、出来たてのお菓子をこっそり貰い、つまみ食いすることもあったと言う。母の膝の上に座りちゃっかり会議に同席することも多々あり、今思えば、そうして子供ながらに経営者の背中を見、菓子製造に慣れ親しむことが先の自分に繋がっていたのかもしれない、利一郎氏は語る。

大胆不敵な青年時代  
持つて生まれた運と才能

日本大学を卒業した利一郎氏は、そのまま東京の某スーパーマーケットに就職する。わずか二年で食品管理コンサルタントを任されるほど、その能力はすぐに発揮された。しかし、そのタイミングで福岡の母より家業を手伝うことを命じられ、利一郎氏は会社を辞め福岡へと帰省する。ここで利一郎氏は、そのままおとなしく家を手伝う選択をせず、なんと単身ドイツへ「菓子修行」として

今回初めて、サカエ住宅が処々工事をさせて頂いたお店を紹介する事となりました。

飯塚市のほぼ中心に古くから存立し、入母屋造りの落ち着いた雰囲気の外観で、炭鉱で栄えた当時の勢いを感じる建物です。以前、嘉徳劇場も大打撃を受けた飯塚市大水害の被害をここもかなり受け、弊社で改修工事を行いました。が、格天井などは水害以前のまま残っています。

店舗奥に、元々本家として住まわれていた建物があります。店舗内右側の板戸を開けると繋がる道があり、そこを路地風に改修工事いたしました。軒を深く大和打の板庇、焼杉板壁、洗い出し仕上げの土間などで風合いを壊さないようにしています。

玄関を開けると、樺の一枚板、正面に急な階段。その階段を上がり二階へと進むと随所に色々な木材が使われていました。

まず、櫻の床板、檜の敷居、柱が木曽檜のような目小間の熊本の檜だと思います。各所に竿縁天井(角面・猿頬面)、縁側



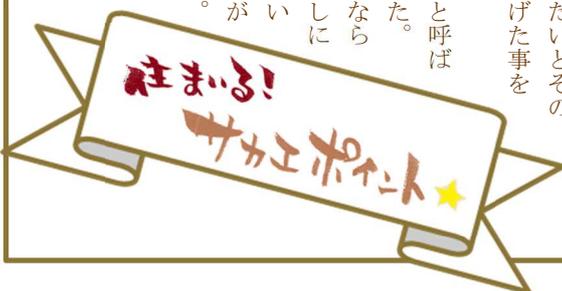
店舗から奥に抜けると路地風の道を行くとひっそり現れる玄関。連絡があればここが解放されて、中を自由に見学できます。

には海布丸太に小舞打ちの天井。床の間横の出書院奥に突然、北山杉のような絞り丸太、はたまた床框は面皮、落掛けは枋の木です。

この建物を見ていると、随分前になりましたが、ある私立高校の理事長の自宅の工事をさせて頂いた時に、その方がいるいるな所に旅行に行かれ見えてきた建物の話をされ、こんな物を作りたいとその都度勉強し、作り上げた事を思い出しました。

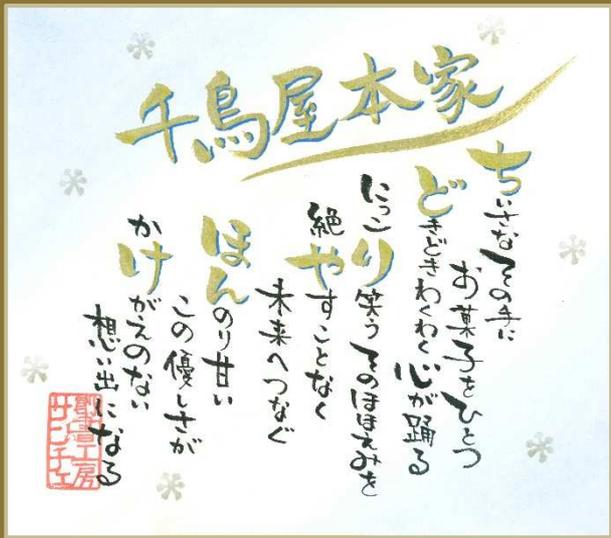
筑豊地区は小京都と呼ばれた時代もありました。施主の豪儀さと筑豊ならではの、ハツタリ無しには出来ない素晴らしい技術の見られる建物が至る所に存在します。当時の大工と施主の会話が聞こえた気がしました。

(文：伊藤)



# 詩あわせサンチェ ~Happy Sanche~

子供の頃の思い出を楽しそうに語る利一郎氏がとても印象的でした。やはり、お菓子というものはいつの時代も子供心をときめかせてくれるものです。この伝統を守り繋げていくことが、そのまま未来の子供たちの笑顔に繋がっている。今の時代の子供たちが、大人になった時に千鳥屋のお菓子を食べてまた、幼少時代を笑顔で思い出す。そんな未来をイメージしながら仕上げました。



千鳥屋本家会長  
原田利一郎氏。  
粋でお洒落なその雰  
囲気は、不思議な魅  
力を纏う。

「若い頃はやんちゃをした」と、粋な笑顔で語る利一郎氏。ドイツでは、菓子作りの勉強をしながら、夜な夜なダンスホールに繰り出して遊んだものだど、軽快に笑う。そこで知り合った青年と意気投合し語り合ううち、なんと青年がドイツの有名菓子店に勤めていることがわかり、利一郎氏はその紹介で「本場ドイツの有名菓子店」へと就職することとなる。

行き当たりばったりのように見えて、まさ

留学する道を選ぶのだ。

に運命のような最強の運を引き寄せたのだ。

利一郎氏には、不思議な魅力がある。一見してエネルギーッシュで、知的かつパワフルなその風貌は、「大手企業の経営者」としてのオーラをしっかりと纏うものの、ひとたび話を始めると、その鋭さとお茶目さのギャップにあつという間に引き込まれる。この魅力こそが、利一郎氏の生まれ持った才能であり、人を惹きつける要素なのだと言った。まだドイツ語もそんなに喋れない当時ですら、利一郎氏の周りには多くのドイツ人が集まったという。現地の若者たちでケンカ騒ぎになった時は、体の大きなドイツ人たちがあれよあれよと集まってきたのは、みんな味方になってくれたんだよと、「ここだけの話」だと人差し指を唇の前にして言いながら、悪戯に笑うその様子に、国境を超えて利一郎氏が

あらゆる人から愛される理由が納得できる。

## 歴史があるから未来が大切 人を育てて、繋げる責任

飯塚の地は、水に恵まれているという。かつて炭鉱で栄えたこの街の水は「硬水」であり、お菓子作りにとっても適しているのだそう。ここで作られる伝統のお菓子を、更に美味しく、後世へ伝えていくために。利一郎氏は、その躍進の手を緩めない。材料を見直し、味の向上を目指し、常に最良のものを作り出し提供すること。このため努力と向上心こそが、長きに渡り千鳥屋がここにある原点であり、人々に愛される理由なのだろう。

今現在利一郎氏が、千鳥屋の未来に向けて一番力を入れているのは「人材教育」だと言う。従業員の平均年齢は二十六歳と若い。これから三十年後、五十年後のビジョンをしっかりと描けるように。この「千鳥屋」を、今の若者が更にその子供たちへと繋げてくれるように。「お菓子を作ることなんかより、人を育てることの方がよっぽど難しい」と利一郎氏は笑いながら言った。



見学の際には、店内どこかにある、鳥の足跡や襖の引手などの隠れ千鳥を探そう！

だが、筆者はその利一郎氏の人柄とアクティブな考え方こそ、人材教育には欠かせないものだと感じている。きっとこれからも、千鳥屋は「お菓子の定番」として、人々から愛され続けることだろう。

### 千鳥屋本家 飯塚本店

住所 福岡県飯塚市本町4番21号  
営業時間 8:30~20:00  
休日 なし  
電話 0948-22-0831  
HP

<https://www.chidoriya.net/>



千鳥饅頭は創業三百七十余年来、守り続ける伝統のカステラと丸ボーロから生まれた千鳥屋の代表菓です。



(文・サンチェ)



館内には歴史ある品々が、所狭しと展示されている。写真は、「意外と気が付いてもらえない」と利一郎氏談の戦国時代の槍や刀等。

緑が薫る懐かしき空間  
「母」がこだわる、良質の和菓子



【和草〜にこぐさ〜】

## 足を運ばばそこは異世界 「本物」の、自然の癒し

世の中は便利になったものだ。カーナビの進化・普及はもとより、今やスマートフォンひとつでほぼ完璧な道案内が手に入る。道に迷って地図をくるくる回すような状況に陥ることは、一昔前に比べて格段に減ったのではないだろうか。

それでも、音声案内に従って車を走らせながら「本当にこの道で合っているのか？」と、一瞬不安が頭をよぎるほどの山道。直方市街地から車でたった十分足らず。ついさっきまで居た街の喧騒が、まるで嘘のようなその山中に。「和草(にこぐさ)」はひっそりと、あた

たかな灯りを漏らしていた。

カラカラと音の鳴る玄関のガラス引き戸に、なんとも言えない懐かしさを覚える。風のざわめきと鳥のさえずりが美しく重なり合い、まるでヒーリング系のCDと聞き間違えうほどの完璧な「音色」を奏でていた。事実、筆者はしばらくの間、その鳥のさえずりを本当にCDの音だと思い込んでいたのだ。

築六十年になる古民家の中で、足をくずして一息をつく。そこに広がるのは、「まるでタイムスリップしたような」などという表現だけでは足りないほどの情景。別世界だ。そう、「まるで映画の中に迷い込んだような」と言った方がしっくり来るかもしれない。

## 子育てに追われ 奔走する日々

### 「働くこと」の概念を考える

オーナーの石米温代(いしよね はるよ)さんは、なんと四児(女・男・男・男)の母。この度長女が成人し、子育てこそ「だいぶ落ち着いた」と言うものの、末っ子はまだ中学生。温代さんの「お母さん」としての毎日は、一体どれほどのパワーを要するのか。世の母親たちなら、大体の人が想像するだけでぐったりしてしまおうのではないだろうか。しかも、「和草」をオープンしたのは八年前前というから驚きだ。当時六歳、八歳、十歳、十二歳の子供を育てながら、自分のお店をオープンするという熱量に、温代さんの想いが、並大抵のものではなかったことが想像できる。

温代さんは、歯科衛生士として二十年間歯科に勤めた。結婚・出産を経て、子を育てながら働くことの大変さを常に感じながら。四人の子供たちが、順番に熱を出しては勤

「和草」という雅な名前に惹かれて訪ねてみたところ、ずんずん山奥へ入っていく、どこがどうなつたかどおりついたのかわからなくなるぐらい車を走らせたでしようか？ 細い道が多く、とても苦戦しましたが、文明の利器(カーナビ)のおかげで何とかたどり着くことが出来ました。場所は龍王峡のすぐ近く。とても静かな所でした。世俗を離れて、たまにはのんびりと自然と対峙することもなかなか良い事だと思いました。

自然豊かな場所に立つ、古く懐かしさを感じさせる建物を見る際に、私がいつも気にかけて注視してしまうものがあります。それが木製建具です。

最近の流行りの住宅は、既製品の建具が大半を占めており、いわゆる工芸品のような建具にはなかなかお目にかかれませんが、私も建具にはかなり泣かされた思い出があります。建物そのものがいくら上手く出来ても最後の仕上げで点数が下がって、しまいます。その最後を担うのが建具でそ



ところ狭しと並ぶ、どこか懐かしい感じの調度品の数々。



瓦屋根、漆喰の壁……懐かしい雰囲気建物は日本の故郷を思い出させる、とてもノスタルジックな世界。

の善し悪しで評価がかなり違ってくるのです。

そんな苦い経験を幾度となくも繰り返したせいでしょうか。こういう古い建物を見るとつい建具を凝視してしまうようになってしまいました。

昨今は接着剤で何でも張り付けてしまいう時代になり、すっかり建具の技術が失われたように思います。過去の建具を見るたびに先人の

技術の高さを感じ、その技術を得るための日々を思いを馳せます。

最後に、いつもご愛読してくださる皆様へ、お願いがあります。

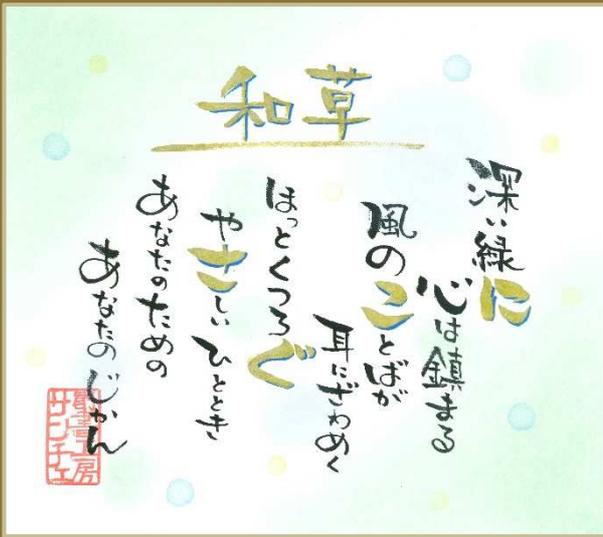
お洒落で素敵な建具を見つけたらご一報頂けたら幸いです。

(文・伊藤)



# 詩あわせサンチエ® ~Happy Sanche~

なんと言ってもロケーションのインパクトが半端ではない！目で観て、音を聴き、その自然が織り成す世界観はまさに「百聞は一見にしかず」。そこに流れるゆっくりとした時間を、美味しいお菓子を食べながら、ゆっくりと味わうことこそが最高の癒しだと感じました。忙しい日常から離れ、たまにはボーッとしてみる。そんな、自分のための贅沢な時間をイメージして仕上げました。



オーナーの石米温代  
(いしよね はるよ)さん  
そのあたたかい微笑みから、和草を取り巻くものすべてに優しさが溢れている。

務に支障が出る。なかなか休みが取れない中、病児保育やベビーシッターを利用することもあったという。  
母親として、仕事を理由に学校行事へ参加できないことも心苦しく、また理不尽に感じていた。そうした想いを沸々と募らせながら、温代さんは「二十年」を一区切りとして歯科を辞め、自分の時間を有意義に使うために、「やりたいこと」を見つめ直す道を選んだ。  
当時、育児に追われる日々の中で、「いつか子供たちが成長し、本当に手が離れた時のために、自分自身でお店を持つ」と思ったという。

## 和×自然×古民家 運命のドミナマが動き出す

もともと料理やお菓子作りが好きで、その中でも特に「餡子」に目がなかったという温代さんが、自分探しとして「和菓子づくり」へたどり着くのにそう時間はかからなかった。和菓子教室へ通い、和菓子屋に勤めて半年ほど経過した頃に、なんとなく違和感を覚えるようになったという。  
思っていたよりも多く投入される白砂糖。

この考え方に筆者は感嘆した。将来子供が巣立って行った時に、自分に残るものは何だろうと、ふと自身を省みて考える。目の前にいる温代さんの話一つ一つに、同じ母として唸らされながら取材をすすめた。



優しい空間にぴったりの懐かしさを感じさせる調度品の数々。自然の緑と木の茶の色彩が気持ちをはっとさせてくれます。

「縁と環境と人に感謝」と温代さんは言うが、筆者は、この建物で温代さんが「和草」を営むことは、まさに運命だったのだらうと感じた。建物、ロケーション、こだわりの食材、オーガニック和菓子、そして石米温代という女性。そのすべてにおいて見事に調和が

季節の彩りを美しく表す合成着色料。それが悪いとは思わないものの、お子さんにアレルギーがあり、普段から「無添加」などの食品に敏感だった温代さんはいっしょか「既存の和菓子や伝統は認めつつ、私は私にしか作れないものを作ろう」と、オーガニックにこだわった和菓子作りを決意するに至った。  
「良い物」を作るために「良い材料」を探し、必死で調べた。自分で足を運び、生産者に想いを伝え、ゼロから人脈を作っていった。温代さんの穏やかな人柄とその熱意は、生産者から理解と信頼を得るには充分だった。その中で、縁とタイミングが交わり合い、この「和草」の建物と出会ったのだ。「自然×和」の象徴のようなこの建物で、こだわりの「オーガニック和菓子」を提供する。まさに、温代さんが志したものが、ここ「和草」なのである。

取れており、それらをひっくり返して「ひとつの作品」となっているのだ。  
冒頭で述べた「映画の中に迷い込んだような」という感覚は、あながち間違っているのではないだろう。ここは、「和草」というひとつのシナマを楽しむための、特等席なのかもしれない。

### 本日のお茶セット

650円～

お菓子は日変わりで、この日は黒ごまの豆乳プリンと黒本わらびもち、木の実のジェラート。選べるお茶は抹茶・珈琲・野草茶です。



夏オススメ「塩ぜんざい」材料の入荷次第なので、レアメニューですが絶品。出会えたらラッキー！

(文：サンチエ)

## 和草 (にこぐさ)

住所 福岡県直方市上頓野 3649  
営業時間 13:00～17:00 頃  
休日 不定休 (要：問合せ)  
※月初めにホームページとFacebookページにてお知らせしています  
電話 090-9601-7468  
HP

<https://nicogusa.jimdo.com/>



絵心が欲しい～

教えて！描ける人！！

第一回 基本のイラスト

講師 旭奈優 先生

取材・文 ナンチェ

絵は勉強ではありません。学校で、絵を描く時間はあっても、絵の授業はありませんよね。もちろん、絵の描き方に正解などなく、自由に描くことが大事だからです。でも、だからこそ！ 絵が上手い人に憧れる！  
『あんな風にスラスラと描けたらいいのに！』と思ったことはありませんか？ 絵の描き方にこそ「正解」はなくとも、なにか上手に描く「コツ」が知りたい……  
フローラルポートレイトの旭奈優あさひな・ゆじ先生を迎え、全四回の連載にてお送りする「**教えて！描ける人！**」  
第一回となる今回は、まず基礎中の基礎からです！  
これであなともお絵かき上手！  
まず、「イラストを描いてみて」と言われても、どんなものかよくわかりませんよね。「イラスト」とは、簡単な「お絵かき」だ

と思いませんか？

お子さんに「ワンワン描いて〜」と言われたときに、サツと可愛い子犬が描ける。「ブー描いて〜」と言われ、チャチャッとキレイにクルマが描ける。俗に言う「絵心」がなくても、裏ワザ感覚で基本を意識するだけで、それらしいイラストが描けるようになるんです！多分！（笑）

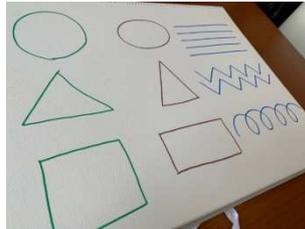
基礎中の基礎！

規則的な図形を練習しよう！

○、△、□の図形や、直線、曲線などを「規則的に」美しく描くことを意識しましょう。

あらゆるイラストを、その図形のみで描くことを意識してみてください。「規則性」を持たせることでバランスがよくなり、グッとイラストらしくなるのです。左右対称などを意識するのもいいですね。

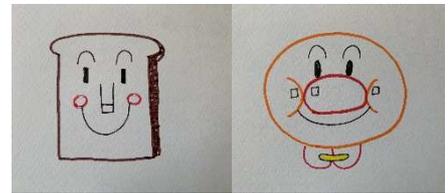
いろんなものを、キレイな図形や直線、曲線を使って描いてみてください。「絵に描こう」ではなく、「図形化してみよう」ぐらい



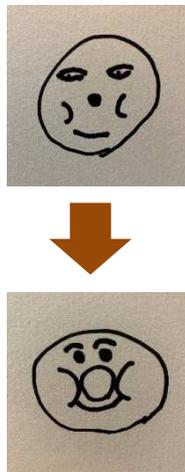
の気持ちで！

「イラスト」は、写生ではありません！本物と違って良いのです。思いきりデフォルトして、「キレイに、規則的に」描くことが上手く見せる「コツ」です！

図形化の基本、おなじみのアンパンマン。よく見ると、ほぼ規則的な円と四角から出来ているのがわかります。



この、「キレイな○」を意識して、アンパンマンを描いてみると……



こんなに違う！（笑）※注：同一人物が描いています。

○を意識するだけで、こんなにもアンパンマンらしくなりました。

いかがでしたか？

絵が苦手な人も、きつと円や線での図形なら描けるはずですよ。

これでもう、お子さんのお絵かきバトルも楽勝ですね！

次回予告

「ゼンダングルアート」

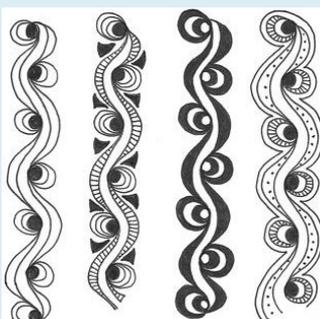
第一回は基礎中の基礎をお送りしましたが、二回目からはグッとレベルが上がります！  
いや、レベルが上がったように見えますが、基本は今回と同じです

規則的な図形を繰り返し描いていく「ゼンダングルアート」に挑戦です！

お楽しみに！



○、△、□、直線や曲線をうまく使えるようになると、簡単にかわいらしいイラストが描けるようになります！



ゼンダングルアートとは、ペンのみで描いた線だけのパターンアートです。

## 講師案内:旭奈優 先生

子供の頃から絵を描くことが好きであったが、特に絵に関する道には進まずフラワーアレンジメントの講師として活動を始める。

出産を経て、子供と一緒に絵かき合戦をしていたことが再び絵を描き始めるきっかけとなる。

フラワーアレンジメントで培った知識を活かし、またブライダルブーケの作成などで「人のイメージに合わせて花を作り上げる」ことへの興味があったことから、自身の描いた絵のイメージに花を合わせ、



ポートレート(人物画)とフラワーアレンジメントを融合させたオリジナルアート「フローラル・ポートレート」を考案し、2016年に商標登録を取得。その後、福岡を中心に東京や横浜において数々の個展を開催。

福岡では「天神パークサイドギャラリー」、東京では「モンローアート展」にも出展。またサックス奏者とコラボレーションし、音楽と絵画を融合させたライブ等、幅広く活動する。



## フローラルポートレート



←旭奈優先生の作品はこちらからご覧になれます。

## Saka-yell 情報局

- ・ 募集掲示板
- ・ お知らせ



現在、Saka-yell では筑豊地区及び行橋方面の素敵な建物(?)の情報を募集しています。

古民家・廃校をリノベーションされたもの、近未来的建築物……等々。

自薦他薦問いません!

オススメな建物がありましたらぜひともお知らせください!

※募集を受けた場所に直接お伺いできるかはわかりません。

もしかしたら出る?……ぐらいのお気持ちだと大変ありがたいです♪



### 募集掲示板

#### ●お知らせ●

今号のSaka-yell なびはお休みさせていただきます。楽しみにしていただけいていた皆様には謹んでお詫び申し上げます。大変申し訳ございません。

注文住宅を建てるという事

その四 地鎮祭の話

皆さんは、地鎮祭(じちんさい)、または、とこしずめのまつり」という言葉を聞いたことがありますか？

地鎮祭は工事を始める前に行う、土地の神を鎮め、土地を利用する事の許しを得る儀式です。

一般には神を祀り工事の無事を祈る儀式と認識されている為、安全祈願祭とも呼ばれています。

「聞いた事あるけど何をするのかわからない」方が多いと思いますので、今から神式による地鎮祭の一般的な流れを簡単に説明しましょう。(場所によっては仏式もあるようです)

地鎮祭は神職の元、建築業者・設計者・施主ら参列の上で執り行われます。

土地の四隅に青竹を立て支柱とし、しめ縄で周囲を囲って祭場を作ります(紅白の横断幕を張ったテント内に祭場を作る事も)。八脚台を並べ、中央に神籬(ひもろぎ)という大榎に御幣・木綿を付けた物を神とし祭壇に立て、酒・水・米・塩・野菜・魚等の供え物を供えたら、準備は終了です。準備が済んだら、手桶に張った水で両手を洗って心身を清めて会場に入ります。開式の音頭の後、祭典前に参列者やお供え物を祓い清め、神籬に神を迎える儀式を行います。

降臨された神に祭壇のお供え物を食べて頂く献饌(けんせん)の儀を行います。こ

サカエ住宅的・快適生活 第五回

の時に用意した酒と水の蓋を取ります。

この地に建物を建てる事を伝え、工事の安全を祈る祝詞を奏上した後、土地の四隅をお払いし清め、『初めて草を刈る・土を起す・土をならす』作業を設計・施工・建主にて行い、神職が鎮め物を納めます。

神前に榎など常緑樹の小枝に紙垂を付けた玉串を神前に奉り、拝礼します。酒と水の蓋を閉じ、お供え物を下げ、神にお帰り頂いて、閉会となります。

地鎮祭が済んだ後、直会を行います。現地にてお神酒で乾杯を行い、お供え物のお下がりを受けます。最近では別の場所、ビールや仕出しの弁当もしくは料理店等で祝宴を開催する事もあります。

地鎮祭は家を建てる際、土地の神へのあいさつと工事の安全、その後の一族繁栄を願って行われる大切な儀式になります。

今回はあくまでも流れのみの説明で、事に必要な物等はほぼ記載していません。わからない事がありましたら建築業者に相談してください。いつでも相談に乗って貰えると思います。

次回は家を建てる際に必要な検査である、「建築確認検査」についてお話ししたいと思います。

地鎮祭の風景。これは紅白の横断幕とテントによる祭場です。今はこちらの祭場が多くなっています。



Writer's INFO

創書工房サンチェ

ネームインポエム作家兼フリーライター。1981年生まれ。行橋市在住。二児の母。2009年、友人へのお祝いで思いついたネームインポエムをきっかけに作家活動を始める。

京築、筑豊、北九州地区を中心に各イベント等に出店、即興でのネームインポエムを作成・販売。全国オーダー販売対応。筆文字デザインや執筆等にも対応可。

「夢のある子供を育てるためには、まず母親が夢を持とう」をモットーに、主婦業、育児業の傍ら隙を見ては自分のやりたいことに没頭する自由人。

地元の行橋市では、子育てイベントmama☆wara【ママ笑】の実行委員や、婚活イベント【アオハル。】の主催も務める。



ネームインポエムのお問い合わせ

http://www.facebook.com/kobosanche  
kobo-sanche-526@docomo.ne.jp  
または右のLINE登録QRコードからお願いします。



一級建築士×大工  
未来を約束する、  
マイスター品質。

Only One Styleの家づくり



〒820-0106 福岡県飯塚市赤坂 846-157



＝ 編集後記 ＝

「Saka-yell」もとうとう第五号になりました。最近では『新しい号を楽しみに待っています』というお声も頂け、とてもありがたく思います。

回数を重ね、最近では始めた当初と別の悩みが出てきました。それは「特集のテーマ」です。元々冊子編集なぞ無縁のメンバーで構成されているスタッフ。慣れないなりにいつも相談しつつもよきものになるよう頑張っています。

年号も令和となり、心機一転、今後も頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。